



名古屋青年

NAGOYA YMCA NEWS

78

2014 No.697

昭和27年5月13日 第三種郵便物認可
毎月1日(月刊 定価1部60円)
(購読料はYMCA会費に含まれています)

●発行所 公益財団法人名古屋YMCA 〒461-0002 名古屋市中区代官町35番16号 ☎052-932-3366 ●発行人 中村 隆 ●編集人 中野美幸

年間聖句

「あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」

(ルカによる福音書 9章48節)

Los Angeles YMCA キャンプ

パートナーYMCAの一つ、ロサンゼルスYMCAから、キャンプについてのメッセージが届きました。世界中のYMCAで同じ理念の下、この夏も様々なキャンプ活動がおこなわれます!



Camping with the YMCA of Metropolitan Los Angeles has become a signature program that reaches over 3000 children each summer. Many of these campers come from financially disadvantaged communities, and were it not for many generous donors, they would never get to have an experience like this. For many, when they step off the bus at camp, it is the first time they see tall

pine trees, and breath clean air. It is also the first time they have been away from home for more than one day. Campers spend a full week at camp, and become a part of a temporary community. For seven days, each child will make new friends, receive love and care from many YMCA volunteers, try new things, and grow in the core values of caring, respect, honesty and responsibility.

While at camp, the campers gain a sense of independence. Each child is given an opportunity to make decisions while under the guidance of a loving adult. Campers also become responsible for themselves as they keep their living areas clean, decide what they want to eat at meals, and also clean up their area after eating. Campers also learn how to respect others in their cabins. They learn to accept differences among their cabin mates, and gain an understanding that each person is uniquely different.

Many YMCA campers come to camp with a fear of trying new things. Camp presents many opportunities to enjoy new activities, and gain new skills. Each summer, children get to learn how to ride horses. It

is amazing to see a child move from being fearful of such a large animal to master riding them along a trail. It is also wonderful to observe a camper preparing to climb a 40 foot rock wall. To see the fear in their eyes as they stare up at the top, and hear them say they can't do it. With the guidance of the staff, and encouragement of their cabin mates, the camper begins to climb, and ultimately achieves their goal of ringing a bell at the top of the wall. For many, this will be the first time they have conquered a fear, and not given up. They learn that they are stronger than they thought they were, and it helps them in life as they face new challenges.

Each day ends with counselors talking with their campers in the cabin prior to going to bed. This is a time where campers can share things they learned during the day, and challenges they faced. It is a time where the trained counselor can guide the conversation so campers can feel a sense of accomplishment. The counselor can also highlight character values that were learned and modeled by campers.

When a child goes home after a week at camp, they have made new friends, learned what it means to be a part of a community, and experienced growth in caring, respect, honesty and responsibility. The YMCA camping program is truly about youth development, healthy living and social responsibility.

Jeff Darling
Executive Director of Camping Services
YMCA of Metro Los Angeles

「子どもを成長させるYMCAキャンプ」

ロサンゼルスYMCA キャンプディレクター
Jeff Darling

<要旨>

ロサンゼルスYMCAは毎夏3,000名を超える子どもたちとキャンプを行なっています。これらの子どもの多くは経済的に困難な状況にあって、キャンプに参加するには、寄付によって支援してくれる人々の協力が必要です。そのような支援によって、子どもたちはかけがえのない経験を、キャンプ生活の中で味わうことが出来るのです。

キャンプ場での7日間、子どもたちは新しい友達を作り、様々なことにチャレンジしたりして、キャンプという共同体の一員となって過ごします。食事や生活の場をきれいにしたり、グループの中でのお互いの人間関係を学んだりもします。そこでは、愛情を注いでくれるスタッフやリーダーなどの導きの中で、共同体の一員としての責任感を持ち、一人の人間としての自立感を体験します。

キャンプ場には、自分の限界に挑戦するような活動が用意されています。例えば、近くで見ると恐ろしく感じるほど大きな動物である馬に初めて乗り、周回路を一周するうちにすっかり慣れて、自信にあふれた様子になります。また、12メートルもある壁面を前にして、周りの”できるわけないよ”という声を聞きながらも壁を登り切って頂上にあるベルを鳴らした時の感動と自信は素晴らしいものです。困難に挑戦して最後まであきらめず、何かを達成したという経験は、彼らの人生に大きな自信を与えてくれることでしょう。

眠りに就く前のひと時は、訓練されたユースリーダーが子どもたちに語りかけ、その日の出来事を一人ひとりが思い出して達成の喜びを確認します。この時間を導くユースリーダーは、子どもたちにとっての憧れでありお手本でもあります。

7日間の後、キャンプ生活の中で学んだ“責任感”“思いやり”“誠実さ”“尊敬心”を通じて得た新しい友達や学びを胸に、子どもたちはそれぞれの家に帰って行きます。YMCAのキャンプはまさに、子どもの成長、健康的な生活、社会的責任の体験を提供する活動なのです。



名古屋プラザ
ワイズメンズクラブ
大島孝三郎

私は七十五歳になりました。中学生の時、上前津にあったYMCAの英語学校に通っていました。六十二年前のことです。前津中学からは近いので授業後直接YMCAに行っていました。お陰で、英語は良い成績が取れました。英語学校の始業式や終業式などでは讚美歌とYMCAの歌を歌いました。キリストの誕生の幻燈写真(スライド)も見ました。英語学校の他には少年部の活動で飯盒炊爨(はんごうすいさん)をしたと記憶しております。社会人となってからも英会話のクラスに1学期間だけ通いました。その後の関わりは、一九九四年に名古屋プラザワイズメンズクラブに入会し二十年が経ちました。誘ってくださった二人の先輩をはじめ、多くの親切なメンバーにめぐり合いました。仕事上とは違った関係での交流から人間性を培う経験が得られたと思います。街頭募金の経験、クリスマスキャロルの補助活動、チャリティランの走路の整理、発達障がい児の野外活動の支援、養護老人施設への慰問などが例です。ワイズメンズクラブの活動では、会長、主査、中部部長を務め、西日本区のワイズメンの中にも、多くのメンバーと交流ができ、さらには北海道と台北でのアジア大会の他、二〇一〇年の横浜での国際大会の参加を通じてワイズメンとしての誇りを感じ、YMCAの理解を深めてきました。これからも体力に応じて長く関わっていきたく思っています。



名古屋YMCA使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

お問い合わせ <http://www.ngoymca.com/>

名古屋YMCA 052-932-3366
南山ファミリーYMCA 052-831-6968
南山幼稚園 052-831-8271
神沢YMCA 052-879-6300
YMCAかみさわ保育園 052-879-6222

フィリピン被災地支援ワークキャンプ報告書

西村 太一

5月11日～5月19日の9日間フィリピン被災地支援ワークキャンプに参加させていただきました。

今回のワークキャンプの目的は、昨年11月8日にフィリピンを襲った台風30号で被害にあったイロイロ洲にあるタンバリザという地域におもむき、被害を受けた地域の住民との協働を図ること、小学校および高校の図書館の修復作業でした。そして今回のワークキャンプには、日本からだけではなく、近隣のアジアの国からも多く参加していました。ワークキャンプを通して日本から参加した仲間、そして多くの国の仲間と共に作業に取り組み、無事、小学校の整備を完了することが出来ました。



今回のワークキャンプを終えて感じることは、今回のような支援活動を継続して行う必要があるということです。今回のワークキャンプではほんの一部の場所しか支援活動ができていません。タンバリザでは、まだ復興活動を必要としています。半壊している教室・家も目に見え、働く場所を見つけていない人々もいるということを知りました。早く村の人々が普段の生活を取り戻せるよう、日本のボランティアがタンバリザに再び訪れ、復興活動を住民と共に取り組むべきだと私は思います。



今回のワークキャンプに参加して、全国のYMCAの仲間たち、そして世界の仲間たちと共に1つの目的に向かって取り組めたことは自分にとって大きな経験になりました。この経験を今後に生かしていきたいと思っています。

日韓ユースセミナー 2014 参加者募集!!

名古屋YMCAと韓国ソウルYMCAは1964年から交流をもち、現在もパートナーシップYMCAの関係にあります。

昨年度はソウルYMCAから9名のユースグループが来日し、名古屋YMCAのユースグループ15名とともに『絆を深めよう』をテーマに御岳・日和田高原キャンプ場でキャンプをしたり、名古屋市内の観光を通じて交流を深めました。様々なアクティビティを通して相互理解と交流を更に深めることができました。今年も名古屋YMCAからユースを派遣する年であり、セミナーの参加者を募っています。

- ▶期間：2014年8月25日(月)～29日(金)5日間
▶対象：高校生以上のユース(30歳位までの方)

協調性があり、異文化社会の生活に関心をもち他者を理解しようとする意思のある方。心身ともに健康で、人とコミュニケーションをとることが好きな方。

このセミナーに関心のある方は、名古屋YMCAまでお知らせください。希望者には必要書類をお送りします。

【お申込み・お問合せ先】名古屋YMCA 052-932-3366 担当：重留

総主事コラム

もう一つのワールドカップサッカー

日本代表の初戦はコートジボアール戦。残念ながら試合には敗れてしまいました。残念ながら試合には敗れてしまいました。多くの学びがありました。メディアにも取り上げられご存知の方も多々ありますが、コートジボアールという国は南北対立の存在する国です。地域差別や移民問題が進み、一九九九年にはクーデターが起きました。二〇〇六年コートジボアールがワールドカップ初出場を決めたとき、選手たちがテレビ局のカメラの前に膝まづき「すべての国民が共存し、同じ目的に向かってプレイできる事を皆さんにお示しました。中略」武器を置いて選挙をやる。すべては上手いく。と語りました。その中心には、日本戦で後半途中から出場し自国を勝利に導いたドログバ選手がいました。フランスとの二重国籍を持つ彼が幼少時代を過ごしたフランス代表

ではなく、コートジボアール代表を選んだことも彼が絶大な支持を得ている理由です。一九八六年メキシコ大会の準々決勝は、アルゼンチン対イングランド。大会四年前にフォークランド紛争が起きました。当時アルゼンチン代表の主将だったマラドーナ選手は「イギリス人がマルピナス諸島(フォークランド)で大勢のアルゼンチン人を殺したことは事実だ。中略」いくらスポーツと戦争は別物だといって、これは復讐以外の何物でもないんだ。」と語り2対1で勝利しました。この2点は「神の手」と呼ばれたハンドによる得点とドリブルで五人抜きしゴールした、ワールドカップ史上今も語り継がれる有名な得点です。

一九九八年の優勝国はフランス。その時の中心はジダン選手。当時のフランス代表はアルジェリア系のジダン選手を筆頭に、ガーナ・セネガル・ギアナなど多様なルーツを持つ選手によって構成され、白人のフランス人はわずか3人でした。フランスが持つ移民問題は、一時ではありますが、サッカーによって緩和された事実があります。さて今回のワールドカップに目を戻しますと、一九九二年にユーゴスラビアから独立したボスニア・ヘルツェゴビナが初出場。一九九五年まで続いた紛争により国際舞台への復帰が遅れましたが、今大会で初ゴールを決めました。この国は前日本代表監督のイビチャ・オシム氏の母国でもあります。コスタリカは中米にある人口四五〇万人の小さな国ですが、一九四九年に常備軍を廃止する憲法を成立させ、一九八三年に永世非武装中立を宣言した国です。ホンジュラスは世界最貧国の一つに数えられる国です。イランの選手にはユニフォーム支給が二枚しかなく試合後のユニフォーム交換が禁止との報道もありました。

夏プログラム募集中

この夏より名古屋YMCAは名古屋市教育委員会の後援名義を受け、市内の小学校へパンフレットを配布し、幅広く募集を呼び掛けることができるようになりました。東区・昭和区・緑区・刈谷市とそれぞれの活動拠点でこの夏にしかできない様々な体験プログラムへたくさんのお子さんの参加をお待ちしております。

維持会員・ボランティア会員としてのお支えを心より感謝申し上げます。2014年5月17日～2014年6月30日

Table with 2 columns: 維持会員 (継続) and ボランティア会員 (新入・継続含む). Lists names of members and volunteers.

Table titled 'ワイズコーナー 7月例会の予定' showing meeting dates, times, and locations for various groups.

名古屋YMCA 早天祈禱会. Details for a prayer service on July 1st and August 1st, including venue and time.